

タイ証券取引所

クロントイスラムで活躍する二人にプラティープ・ウンソンタム・秦賞を授与
麻薬から子どもを救うニッタヤーさんと消防隊長のダムロン氏に



タイ証券取引所は3月14日、クロントイスラムで長年にわたって麻薬や覚醒剤などでつまずいたり、つまずかされた少年少女たちの救済に取り組んで来たニッタヤー・プロムポーチュンブンさん（69）と、クロントイ消防・救急隊長を努めて来たダムロン・ブンセン氏（53）にプラティープ・ウンソンタム・秦賞を授与しました。

この賞は、タイ証券取引所がタイ全国で、貧しい子どもたちのために図書館活動や村おこし、音楽、スポーツの振興などに取り組んでいる7つのボランティア団体と連携して年に一度、その各団体から候補者の推薦を受けて審査し、授与しているものです。副賞は各団体200万バーツ（約640万円）で、受賞者が複数の場合は折半されます。同証券取引所の10年間のプロジェクトとして進められ、今年は10回目の締めくくりの授賞式となりました。



プラティープ・ウンソンタム・秦賞を受賞したニッタヤーさんは39歳の時にドゥアン・プラティープ財団の職員になり、麻薬に染まったり、麻薬の運び

屋にさせられている少年少女の救済に尽くし、現在は「ムニティ・プロムチャイ・パタナ（心の開発財団）」の事務局長を務めています。

もう一人の受賞者・ダムロン氏は、狭い路地が迷宮のように入り組んでいるスラムでいったん火災が発生すると、大火になり多数の死傷者が出かねないため、プラティープ財団が33年前に「クロントイ消防・救急隊」を発足させて以来の隊長です。長年の努力と経験の積み重ねで隊の評価は年々高まり、女性16人を含む104人の隊員が夜も交代で宿直し、いざという時に備えています。

授賞式で記念の盾を受けたニッターさんは「スラムの麻薬問題に携わって35年になりますが、まだまだ気が抜けません。きっと子どもたちを救えるとの願いを胸にさらに取り組みを進めていきます」と挨拶。ダムロン氏は「私はプラティープさんの導きがあればこそ、ここまで生きて来れたと思っている。今回の受賞をバネにして、一層日ごろからの消防と救急の訓練に励みたい」と決意を述べました。

